

## 原稿執筆要領

1. 投稿原稿は、ホームページからダウンロードした「論文作成用ファイル」を用いて作成する。
2. 原稿は次の1)～8)の構成要素順で並べて、1つのファイル（以下、「論文ファイル」という）にまとめる。なお、以下の各要素の初ページは本ファイルに組み込んであるので各要素間で「改ページ」操作は不要である。各要素初ページのヘッダー指示に基づき記載する。また、編集上必要なページには、左欄外に行番号、右下にページ番号が自動的に付されるので著者の配慮は不要である。

論文題目（和文・英文）：1ページ分を使用する。

- 1) 和文要旨とキーワード：1ページ分を使用する。和文要旨の最後に、改行してから3～5つのキーワードをつける。なお、【目的】【方法】【結果】等の見出しはつけず、1段落で作成すること。
  - 2) 英文要旨と Key words：1ページ分を使用する。英文要旨の最後に、改行してから3～5つの Key words をつける。なお、【Objective】【Methods】【Results】等の見出しはつけず、1段落で作成すること。また、投稿前には英文校正を必ず受けること。
  - 3) 本文
  - 4) 謝辞・研究助成・利益相反
  - 5) 文献
  - 6) 表 (Table)：1ページに1点ずつ書く。
  - 7) 図 (Figure)：1ページに1点ずつ書く。（カラー可）
3. 論文種類と文字数は下記表のとおりとし、総文字数には本文、文献、図・表を含める。

原稿の種類	最大文字数（原則）	要旨	図表数
原著論文、研究報告、実践報告	16,000 字	和文要旨（400 字程度） 英文要旨（200 ワード程度）	合計 5 点まで 1 点：400～1,000 字
総説、その他	12,000 字		
レター	6,000 字		合計 2 点まで 1 点：400～1,000 字

4. 用紙は A4 判縦置き横書きで、書式は左右余白 30mm、上下余白 30mm、文字数は 1 ページは 1,200 字（40 字×30 行）となるように設定する。
5. 本文で使用する文字とサイズは、日本語は MS 明朝体の 10.5 ポイントとし、外国語・数字には Times New Roman の 10.5 ポイントを使用する。
6. 句読点は、全角「、」「。」とする。外来語はカタカナで、外国人名、日本語訳が定着していない学術用語などは原則として活字体の原綴りで書く。

7. 本文や図表中（文献は除く）で用いられる数字および欧文については、原則として半角文字を使用する。ただし、1桁の数字および1文字のみの欧文（例：A施設、B氏、方法X、など）の場合は全角文字とする。ナンバリングは、章：I. II. 節：1. 2. 項：1) 2) 以下：(1) (2)、箇条書き：① ②とする。全角を使用する。
8. 和文要旨と英文要旨はその言語の特徴に配慮して別々に作成する。英文要旨が和文要旨の訳文である必要はない。
9. 図・表（写真は図として扱う）は、本文と別のページに図1、表1のように番号をつけ作成し、本文原稿内に図・表それぞれの挿入希望位置を朱書きで指定する。ページ上部に論文タイトルを明記し、図・表のタイトルは原則として表は上に、図は下に記載する。その際、いずれもA4判に印刷する際の希望サイズに概ね合わせて作図、作表する。また、図はpdfまたはjpeg、表はWordまたはExcelで作成する。表の罫線は必要な横罫線だけにとどめ、縦罫線は使用しない。なお、図表がない空白ページについては、投稿時にテンプレートから削除すること。
10. 文献の記載方法は下記に従う。
  - 1) 文献の引用は、番号引用形式とする。本文中の引用箇所に連番を上付き書式で付す（例：小倉<sup>1)</sup>の調査によると...）。本文末尾に題を「引用文献」として、番号とともにリストを作成する。
  - 2) 同じ文献を引用するときは、最初に引用した番号を利用する。
  - 3) 文献リストでは、引用文献の著者が3名の場合は全著者名を記す。4名以上の場合、筆頭者3名までを挙げ、「他」（和文）もしくは「et al.」（外国語論文）を記す。
  - 4) 外国語文献の著者名は、姓、名の頭文字、ミドルネームの頭文字（ある場合）の順に書く。
  - 5) 副題がある場合は主題と副題をコロンで区切る。

#### 【雑誌論文】

雑誌名は、和文・英文ともに省略せず記載する。

文献番号) 著者名. 論文表題. 雑誌名. 出版年, 巻(号). 論文の初ページ-終ページ.

—例—

- 1) 吉田浩二, 宮地麻美, 鍛冶朋子, 他. 放射線治療を受けた咽頭がん患者の有害事象評価; 放射線性皮膚炎を中心に. 日本放射線看護学会誌. 2014, 2(1). 12-18.
- 2) Yoshida K, Hashiguchi K, Taira Y, et al. Importance of personal dose equivalent evaluation in Fukushima in overcoming social panic. Radiation Protection Dosimetry. 2012, 151. 144-146.

#### 【書籍】

編者には“（編）”を編者名の後に付記する。書籍の特定部分を引用する場合、所在ページを明記する。表題に章番号などが書かれている場合はその章番号を省略する。

文献番号) 著者名. 書名. 出版社名, 出版地, 出版年.

文献番号) 著者名. 論文の表題. 編者名（編またはed./eds.）. 書名. 出版社名, 出版地, 出版年. pp. 初ページ-終ページ.

—例—

- 3) 齊藤万比子. 発達障害が引き起こす二次障害へのケアとサポート. 学研教育出版, 東京, 2010.
- 4) Holland J. Lung Cancer. Oxford University Press, New York, 1989.
- 5) 黒田裕子, 前田 潤. 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響. 酒井明子, 菊池志津子 (編). 災害看護 (初版). 南江堂, 東京, 2008. pp. 90-91.

#### 【翻訳書】

著者名は原名か英語綴りで記載する。

文献番号) 著者名. 原書名. 原書出版社, 原書出版地, 原書出版年. (訳者名訳. 訳書名. 訳書出版社, 訳書出版地, 訳書出版年) .

—例—

- 6) Northouse PG, Northouse LL. Health Communication: Strategies for Health Professionals (2nd ed.). Appleton & Lange, Connecticut, 1992. (信友浩一, 萩原明人訳. ヘルス・コミュニケーション—これからの医療者の必須技術—. 九州大学出版会, 福岡, 1998).

#### 【電子文献等】

文献番号) 機関名. タイトル. URL (検索日: 検索年月日).

文献番号) 著者名. 論文表題. 雑誌名. 出版年, DOI. (検索日: 検索年月日).

—例—

- 7) 福島県. 福島県から県外への避難者状況.  
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/372482.pdf> (検索日: 2020年3月1日).
- 8) Yoshida K, Orita M, Goto A. Radiation-related anxiety among public health nurses in the Fukushima Prefecture after the accident at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station: A cross-sectional study. BMJ Open. 2016;6: e013564. doi:10.1136/bmjopen-2016-013564. (accessed: 2020-3-1).